

別紙様式1		令和4年度 学校評価表			(最終)			三原市立糸崎小学校			校番(2)				
a 学校教育目標		市教育委員会教育基本理念 「志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成」 これからの三原市の学び 「教える学びから全ての子どもが自ら考え行動する学びへ」 糸崎小学校教育目標 「学び つながり 挑戦する子ども ―地域を支え、世界で活躍する姿をめざして―」			b 経営理念 ミッション・ビジョン			【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童を育成することを通して社会に貢献する。 【ビジョン】(自校の将来像) 自ら学び、共に学び合う「知・徳・体」の調和のとれた児童を育成する。							
評価計画						自己評価						改善方策		学校関係者評価	
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	担当	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
						h 達成	h 達成					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	主体性・積極性を育て、確かな学力をつける。	◎糸小モデルをもとに授業改善を図り、主体的学習を推進することで、学力の定着を図る。 <糸小モデル> ・必然性のある発問 ・子ども主体の学び ・ルーブリック共有 ・思考ツール ・キャリア教育の視点 ・深い学びとレジリエンス ・学びポートフォリオ(学びファイル)	①精選し、効率化した授業内容の創造 ・毎時間のねらいを原則1点にし、到達度を明確にして点検することにより、授業での確実な定着を図る。 ・本校の研究内容をもとにして、授業の深まりの在り方を模索する。 (クロームブックの活用、「話す・聞く」「書く」等アウトプット活動の充実、自己評価・自己点検(OPPシート)の振り返り等	・思考力を評価するテストにおいて各学年目標数値を設定し、達成した児童の割合	教育研究部	71.0%	69.5%	88%	B	・思考力を評価するテストにおいては児童生徒の学習意欲向上にかかっていると考えられる。自分自身に自信もてる部分があれば学力は伸びる。小学生段階から、がんばったこと、自分の課題や克服方法を表現できることは素晴らしいし、すごい部分である。ただし、日本人は勝負に目が行きがちで自信もていない児童生徒が多い気がする。ぜひ、長所ががんばったことにつかり焦点をあててほしい。自分はできている自信がもてなければ、学力も伸びないし、様々なことにチャレンジできません。中学校では、長所や努力していることとに焦点をあてて、児童生徒が継続したいことも、見方を変えたと長所であると自覚させ、自己肯定させることを指導の中で大切にしている。 ・「糸小版学び合い」の学習スタイルを継続し自分の思いや考えをアウトプットする機会を確保する方針は「表現力」を育う改善方策として評価したい。成果物をデジタルポートフォリオとして残したい。単元末のみテスト、漢字検定などで学びの足跡をのこしたりすること、三者懇談での児童の自己表現活動につながると思われる。	5	0	1	・キャリアログの糸小モデルは期待できる。 ・学力向上は最終的には児童生徒の学習意欲向上にかかっていると考えられる。自分自身に自信もてる部分があれば学力は伸びる。小学生段階から、がんばったこと、自分の課題や克服方法を表現できることは素晴らしいし、すごい部分である。ただし、日本人は勝負に目が行きがちで自信もていない児童生徒が多い気がする。ぜひ、長所ががんばったことにつかり焦点をあててほしい。自分はできている自信がもてなければ、学力も伸びないし、様々なことにチャレンジできません。中学校では、長所や努力していることとに焦点をあてて、児童生徒が継続したいことも、見方を変えたと長所であると自覚させ、自己肯定させることを指導の中で大切にしている。 ・「糸小版学び合い」の学習スタイルを継続し自分の思いや考えをアウトプットする機会を確保する方針は「表現力」を育う改善方策として評価したい。成果物をデジタルポートフォリオとして残したい。単元末のみテスト、漢字検定などで学びの足跡をのこしたりすること、三者懇談での児童の自己表現活動につながると思われる。	
			②学びポートフォリオ(学びファイル)をもとに自分の成長や課題がわかり、自己理解を深める取組みを進める。	・学習アンケート「学び(授業)がもしろい」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合		94.0%	88.1%	97%	B	・1学期末に引き続き、2学期末も同様に自分の成果を三者懇談で表現することができた。また、アンケート項目における肯定的評価は91%と、1学期末よりも4%増となった。					
				・学習アンケート「比べて聞く」「結論先行、理由をつけて説明する」の関連項目について肯定的評価をしている児童の割合		83%	83%	97%	B	・学力についてはキャリアログを中心にすえ、成果物を写真にうつし、デジタルポートフォリオとして残すことや単元まとめテスト、漢字検定、ノートワークシートで学びの足跡を残す工夫を継続して取り組む。 ・学びの足跡の内容から、頑張ったこと、課題となったこと、それを克服するために休学中に頑張ろうと思うなどを三者懇談で児童に自己表現させる取組は次年度も継続していく。					
				・学びポートフォリオ(学びファイル)自分が学んだことを振り返り、自分の成長や課題を感じることができる児童・関連アンケート		87%	91%	101%	A	自分のことアンケートの肯定的評価は・自尊感情77.5%・自己効力感86%・回復力81%以上のような結果となった。前回よりもわずかに伸びているが目標に数%届かない結果となっている。様々な行事や学習中の学び合い、ギネスの取組などを通して、自己の役割や自分に対するの良さを意識することができたと考えられる。今後は、学級の誰もが良きや有用感を感じることのできる活動を意図的に仕組んでいく必要がある。 ・「Jタイム」に関する全児童の肯定的評価は次の通り 「Jタイムは楽しい」 80.5% 「Jタイムは体力づくりに役立つ」 88.8%					
豊かな心の育成	協働し、挑戦し、自分の役割を果たす中で、社会性や豊かな人間性を培う。	◎キャリア教育の視点を持った取組を通して、友だちとつながり、挑戦する子どもを育て自己効力感の向上を図る。 ◎地域とつながり、地域に貢献する子どもを育てる。	①糸小ギネス(年間3つ以上)に全員が挑戦する。 ・3つの内容のうち、1つは体力づくりの内容に取組む。 ・集団行動の規制による関わり不足を補うため、児童間の肯定的評価を行わせ、つながりを意識させて取り組む。	・自分のことアンケート 自尊感情の項目 6 13 自己効力感の項目 1 7 回復力の項目 22 24について、肯定的評価をしている児童の割合	生徒指導部・保健安全部	78%	83%	98%	B	自分の行動や友達との関りの中で、良さを意識させたり、実感させたりする指導方法を全校教職員で継続的に実践していく。 ・今後も引き続き、回復力・自尊感情・自己効力感についての理論研修を行い、どのように取り組んでいくのか具体化していく。授業中の指導・評価の仕方、特別活動の意図的な取組など、学校全体で実践していく。	6	0	0	・豊かな心の育成領域の評価・指標として「自分のことアンケート」が実施され、主として「自尊感情」「自己効力感」「回復力」について調査されている。これは自己効力感の向上を図る短期経営目標として設定されているものと思われる。「豊かな人間性を培う」という観点から、より積極的な評価項目の設定、計画を願っていた。 ・中学校では、全職員が全児童・生徒の担任だという意識をもつようになっている。児童生徒が担任から認められていると感じることが大事だと思いますが、担任に仮に認められていると感じることができない場合でも、職員の中の何人かに自分が認められていると感じることができれば、学校に行きたいと思う、伸びていけると考えられる。 ・十分に意味のある地域貢献活動ができていますが、だからといって2回したから達成度100%評価となるような評価の仕方には疑問があります。 ・コロナ禍でも、地域の方と数多くかわり、郷土を愛し、誇りに思う児童を育成を意図されているのだなと感じました。	
			②地域とのつながりを深め、地域を大事にする意識を醸成する。 ・地域貢献活動の実施(参観日での講話、ビデオ講師等の取組、地域清掃活動、ふれあい体験活動 (敬老会しおり配布、講師等へのお礼のはがき取組み等)	・地域貢献活動 全学年年間2回以上実施 (コロナ禍等考慮)		100%	100%	100%	A	・糸崎には地域において学びの資源が多くある。学校の教育活動の効果高めるとともに、地域とのつながりを意識した内容となるように活動の工夫をしていく必要がある。 ・糸崎小で行われている活動は、地域と密着した学習が行われている。今後も、学年の実態に合わせて、教育計画を立てていく。また、自分たちが地域に貢献できることは何か、考えていけるようにしていきたい。					
				・自分のことアンケート 糸崎地域を好きの項目について肯定的評価をしている児童の割合		90%	96%	106%	A	①業務改善を進めていった結果、在校時間(外)が35時間以下の職員数92%となり、目標を達成することができた。教諭は全員、35時間以下であった。業務改善として、成績処理・事務処理などを設け、スケジュール管理を行ったこと、行事の精選。業務内容の見直し等の改善方策の成果が出ていると考えられる。また、職員同士が相談・課題の共有を行い、仕事に対して真摯に向き合う風通しの良い職場ができていると考えられる。課題として、持ち帰って仕事をしている実態がある。今後は、持ち帰りの仕事をめめて対策の必要性がある。					
						90%	96%	106%	A	以下の方で更なる業務改善を図りたい。 ・登下校時刻の見直し ・週の時数の見直し ・スケジュール・締切等の可視化 ・持ち帰り仕事をなくすための方策の検討 ・仕事術の共有化					
信頼される学校	保護者・地域との連携を密にし、信頼される学校を構築する。	業務改善を図り、働きやすい職場を目指す。	①業務改善委員会で改善方策を検討し、実施する。 (自己申告による定時退校日・・・1日) (17時20分からのサイレントタイム) (18時の確実な施錠・・・等)	・在校時間(外)が月35時間以下の職員数	教務部・総務部	86%	92%	100%	A			6	0	0	・ただ単に退校時間が早まればいいものではない。持ち帰りの仕事を削減する有効な策があれば、中学校と共有したい。 ・職員室の人間関係は大切で、明るい雰囲気職員間の会話が増えていくほうが、心身ともに健康で、意欲的に児童・生徒と関わるができます。

【j:自己評価 評価値】
A:100≧(目標達成) B:80≧(ほぼ達成)<100 C:60≧(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価値】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:分からない。